

私は小さいころから医師としての父の姿を見て育ってきたので、医療関係の仕事に憧れを持っていました。そこで今回の東大研修会で、多くの医療関係に関する学びを得るために日本で一番広い慶應義塾大学病院に行くことを希望したところ、訪問できることになりました。

当日を迎えるまでの日々は色々な医療関係について調べるいい機会となりました。自分はただ単に憧れを持って医療関係の仕事に進もうとしていることや、医療関係に関する自分の知識のなさを実感することもでき、全てが自分のプラスとなりました。

当日は最初にディレクトフォースの方々と話しました。3 人の方の話はどれもためになるものばかりで、これから私たちがどう生きて行くべきなのか、世界中でどのような問題が起こっていてどのような人材が必要とされているのかなどについて学ぶことができました。特に 3 人の方の話の中で印象に残っているのは「高校生のうちにした経験は大人になっても生きてくる」というのと「いろいろな体験をすることで自分の適性が分かる」というのです。この 2 つはどちらもこれから行う行動に自信を持たせてくれるし、高校生のうちから将来について考えることの大切さを感じさせてくれたからです。いろいろな体験といっても抽象的なものになってしまうので私は、辛いことでも努力して成功すること、失敗から次に生かすこと、たくさんの人と関わること、この 3 つを高校生のうちにたくさん経験していきたいと思います。

そして、午後は慶應大学病院を訪れました。慶應大学病院は最初に書いた通り日本一広い病院で、病床数は 1,000 を超え、外来には 1 日 3000 人ほどのとても大勢の方が来ます。私はこれだけ大きな病院で医師として働く方の話を聞けることはもう二度とないという気持ちでのぞみました。

私が慶應大学病院に到着して一番最初に感じたことは、とても病院が綺麗だということです。私はまずそこに病院としての工夫を感じました。病院が綺麗であればそれだけ患者は安心して手術にのぞめ、より医者との信頼関係を築くことができます。私は医進会に所属していて、先日は東北大学の医師の方とお話をする機会がありました。その時にも患者の方と信頼関係を築かなければいけないと言われたので、色々な工夫が慶應義塾大学病院には施されているなと思いました。

そして、脳神経外科医の方々とのお話では東北大学の医師の方と対談したときよりも詳しい医療の話の話を聞けました。私が対談で一番興味を持ったのは覚醒下手術についてです。私は脳神経外科医の先生と話すまでは、覚醒下手術という言葉聞いたこともなかったので最初はよく理解できませんでしたが、話し合っているうちにその手術についてよく知ることができました。

覚醒下手術というのは脳腫瘍などをきり取る手術を行う際にその切り取る脳の役割が損傷されないようにするため、頭蓋骨を開いて脳を出した時に、1度全身麻酔をやめて部分麻酔にすることで患者の意識を戻すようにする術法です。意識が戻ることによって患者の方は体を動かせるようになり、脳を切り取る際に身体障害などが出ないかどうかを確認することができるとても高度な技術が求められる手術です。

私はこの術法を聞いたときに医療技術の進歩をとっても感じました。私が想像していた一般的な脳の手術の方法は20年も前のもので、たった20年で全身麻酔を部分麻酔に変えたり、頭蓋骨を開いた状態が容易に保てるということを知って、私が医者になったときの20年後を想像すると、どれだけ医療は発展しているのかワクワクしてきました。また、それと同時に新しい医療方法を開発する難しさも感じました。未来の医療方法を自分で考えてみてもまだまだ医療関係の知識がない自分では想像も出来ないのも、しっかりと知識を吸収し続ける姿勢が大切だなと思いました。

私は脳神経外科というのはとてもハードだと思っていたので、なぜ脳神経外科医になる選択したのかを質問したところ、医師の方々は①自分の手で患者さんを救う方法を模索できる②術野がきれい③細かい作業が好きだった④脳という繊細でいろいろな機能を司っているところをより詳しく学びたかったから、と帰ってきました。なので、私も医者になったときやこれから様々な選択をしていくときには、辛いからといって逃げだしたりせずに自分のやりたいことをやっていきたいと感じました。

また、驚いたのはマウスを使った実験です。当然生物実験としてマウスを使うことは知っていましたが、驚いたのは脳腫瘍を人為的につくったマウスがいたり、体に免疫機能が備わっていないマウスを作り出していたところでした。免疫機能というのは生物が古来から周囲の生物から身を守るために備えてきたものです。その免疫機能がないマウスを作り出したことに私は興味を惹かれました。

夜には二高を卒業した先輩の方々の話を聞きました。私はハンドボール部に入っているのですが、先生方の配慮のおかげでハンドボール部の先輩の方々から多くの話を聞くことができました。なので、特に部活と勉強の両立のことについてよく聞くことができました。大抵の運動部は週5.6で活動しているのでとても部活後は疲れるうえに、家に帰ってからも多くの時間ありません。なので、先輩方が言っていたのは「時間をうまく使うこと」と「ちょっとした時間に隙間勉強する」ということでした。私はスマホを使う時間がとても多いのでその時間がとても無駄だと思いました。なので、時間をうまく使うためにもスマホを使う時間を減らし、勉強の時間を増やしていきたいです。また、ちょっとした時間に勉強するのに必要なのはどこにでも勉強道具を持ち歩くことだと思うので、学校で支給されたシステム英単語や本をリュックに入れて持ち歩きたいと思います。

東京大学に進学した先輩の多くは、1年生から最低でも順位は2桁と真面目に勉強して、

2年生になると20.30位をキープしていたので3年生になったときに後悔しないように、1年生から国語、数学、英語はしっかりとやっていきたいです。

また、多くの人は数学Ⅲを行う時間が足りなくなり、十分に勉強できなくなってしまうという話を聞いたので、数学は早め早めに予習をしていき、数学Ⅲに時間を注いでいきたいという、勉強の予定もたてられました。多くの学びを得た先輩方の話をしっかりと忘れずに勉強していきたいです。

2日目は東京大学見学を行いました。着いて思ったことは東京大学はとても広く緑豊かな場所なので、勉強がしやすい環境だなと思いました。そして、東京大学の先輩方は皆とても楽しそうに生活をしていたので先輩方に対して憧れを抱きました。話していても先輩方はとても端的に重要なポイントを言い、内容も面白かったので勉強面での頭の良さとはまた違った頭の良さを感じました。

また、東大の教授の方々による模擬講義は簡単にいうととても話の内容がわかりやすく面白かったです。大学では自分で受けたい授業を選択することもでき、大学院に進めば自分の本当にやりたい研究をすることができます。しかし、その研究も大学によってどの程度できるかは変わってきていて、深く研究をするにはそれ相応の結果や努力が必要だなと思いました。

今回の東大研修で私は様々な目標や夢を持つことができました。また、勉強方法なども実際に合格した先輩方から聞くことで、より確かなものを得られました。東京には日本中の人や情報が集まります。自分にとって大切な出会いや発見も東京に進めばたくさん経験できると感じました。なので、今は自分に実力をつけ、大きな岐路に立った時のための準備をしたいなと思いました。そして、高三になったときには今回の体験を生かして、進路選択をしたいと思った。